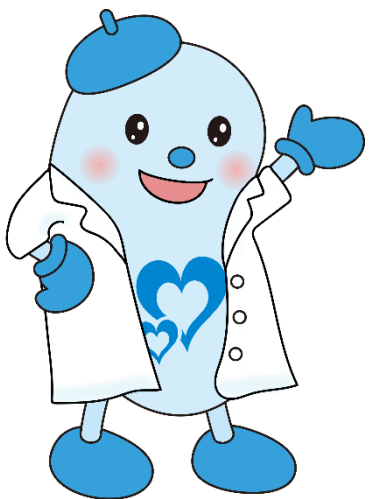
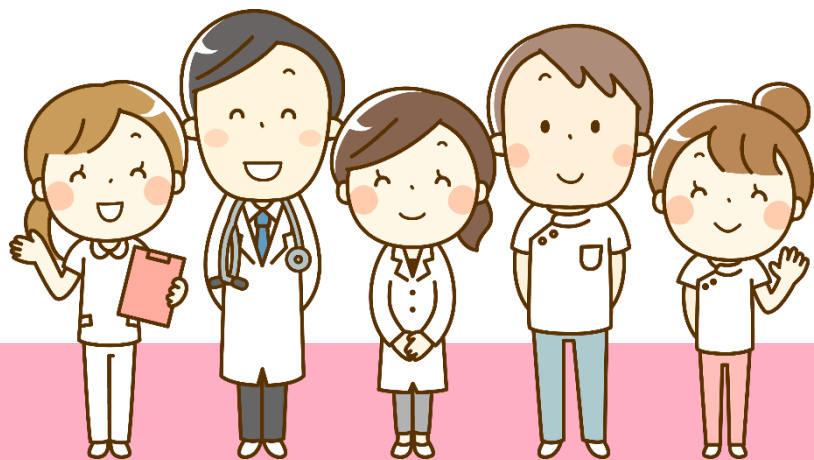




チームで取り組んだ 業務改善・タスクシフト



医療法人社団清永会

矢吹病院

はじめに

患者の高齢化や患者の介護度が高くなり看護師の業務負担が多くなっている。

- ・ 医療法人社団清永会 矢吹病院では看護師が本来やるべき業務ができるように多職種と協同して業務改善に取り組んだ。
- ・ 病院長 看護部長 看護部師長 各部署の代表（事務部長・臨床工学部長・診療技術部長（薬剤師・検査技師・栄養士）と何度か会議を持ち多職種と協力できる内容と依頼したい業務を検討し業務改善が実施できたので報告する。



医) 清永会について



• 矢吹病院(職員数:121) ※令和5年9月時点

- 本町矢吹クリニック
- 天童温泉矢吹クリニック
- 南陽矢吹クリニック
- 清永の里

総職員数：213

※令和5年1月時点



• 病床数

- 一般病棟 (急性期一般10:1) : 40床
- 透析ベッド数: 243床 (4施設合計)
- 透析患者数約743名 (HD、PD、HHD)

※令和5年9月時点





医) 清永会 矢吹病院について



• 矢吹病院(職員数:121)看護部 ※令和5年9月時点

看護師 54名 看護助手11名

臨床工学部 臨床工学士 15名

診療技術部

検査科 5名 薬剤科 3名

栄養管理士 6名 ※令和5年1月時点

事務部 事務12名 クラーク2名

• 病床数

➤一般病棟(急性期一般10:1):40床

➤透析ベッド数:89床(第1第2第3透析室合計)

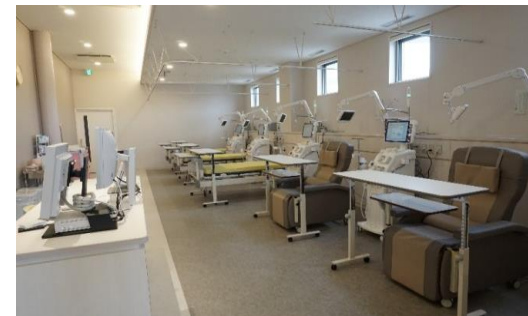
➤矢吹病院 透析患者数287名 PD 28名 HHD14名



矢吹病院 透析室



第1透析室(外来) ベッド数:76床
 第2透析室(入院) ベッド数:8床
 第3透析室(外来) ベッド数:5床
 合計89床



透析患者数
 矢吹病院:約314名(本院)
 全施設を合わせると:約743名
 (HD・PD・HHD) (2023年7月末)



山形県 (2020年の統計)
 透析施設数 35
 透析患者数 2782人
 ・ 血液透析 2690人
 ・ 在宅血液透析 12人
 ・ 腹膜透析 64人

透 析 ス ケ ジ ュ ー ル		月	火	水	木	金	土
	午前	○	○	○	○	○	○
	午後	×	○	×	○	×	○
	夜間	○	○	○	○	○	○

平成28年7月1日～

矢吹病院の外来 病棟 手術室

栄養相談室



CT室



外来

病棟



本院手術室



実施方法

- ・取り組み期間

2018年4月～（手術室）

2022年12月～現在（透析室・外来・病棟）

- ・実施方法

- ・手術室は2018年から実施

透析室・外来・病棟で現在実施している業務で多職種へ委譲できる業務を抽出しまとめる。

関係部署と話し合いを実施

他部署で実施できる内容を検討

実施時期を決定実施



手術室

内容	部署	成果	時期
- 麻酔器の点検、準備 - 全身麻酔時の麻酔器前日点検、当日点検	臨床工学部 臨床工学技士	看護師がリストに沿って点検していたが、専門的な視点での点検を実施してもらうことでより安全に使用できるようになった。	2018年7月
PTAの時の介助や機械展開	臨床工学部 臨床工学技士	曜日を決めて手順書を作成 実施	2022年 9 月
手術件数の集計、報告	事務部 (企画広報室)	集計、グラフ作成業務がなくなった	2021年3月

外来

内容	部署	成果	時期
- 内視鏡検査時の準備、片付け、洗浄 - 内視鏡機器の管理、点検	臨床工学部 臨床工学士	- 内視鏡検査の入れ替え作業が早くなった。 - 看護記録やコスト入力を行う時間が取れるようになった。 - 検査に看護師1名で対応できるようになったので、外来での患者対応に余裕ができた。	2022年12月
- コロナ抗原検査 - CAVI測定、BCM測定 - CPAPクラウドデータの管理、出力	診療技術部 検査科	- 発熱患者数が多くても対応できるようになった。 - 検査やデータ出力を依頼することで時間に余裕ができ、外来業務や患者看護の時間が取れるようになった。	2023年2月 2023年5月 2023年8月
- カルテへの書類スキャン - 封筒作成（紹介状の返事など） - 電話対応	事務部 （クラーク）	電話の対応によって患者さんを待たせたり、対応が途切れることがなくなった。	2023年8月

透析室

内容	部署	成果	時期
朝の注射薬剤の準備	診療技術部 薬剤科	- 日勤始業時間に合わせた出勤時間になった。 - 患者の情報収集に時間をとることができた。 - 余裕をもって業務を開始できるようになった。	2023年6月
CAVI測定（年1回検査）	診療技術部 検査科	- 穿刺業務へ集中できるようになった。 - 患者の穿刺の待ち時間が減少した。 - 看護師の業務負担が緩和した。	2023年8月
- 翌日の注射請求準備 - 翌日の受け持ち割当表の準備 - 定期検査の検査案内用紙の準備	事務部 （クラーク）	- 早番、日勤業務の負担が緩和された。 - 始業時間に合わせた出勤が出来た。	2023年8月

病棟①

内容	部署	成果	時期
入院時持参薬について - 入院時の持参薬回収 - 持参薬と院内処方の確認 - 医師への疑義照会 - 自己管理患者への服薬指導	診療技術部 薬剤科	入院時の煩雑な業務の中で薬剤に関する業務がなくなり負担軽減に繋がった。	2023年1月 中旬
定期処方薬について - 処方の確認 - 服薬ボックスセットのダブルチェック - 自己管理患者への服薬指導	診療技術部 薬剤科	- 定期処方業務が不要となり時間外業務の削減につながった。 - リーダーの業務が減り、看護業務に集中できるようになった。	2023年1月 中旬

内容	部署	成果	時期
入退院に関わる業務 - 入退院チェックリストファイルの作成 - 入院ボックス（書類等を個別に入れる箱）、ファイル、患者ネームの準備、書類の作成 - 入院案内、入院時必要書類のコピーと受け渡し - 患者への面会、荷物受け渡しの説明 - 退院証明書の印刷と患者への説明 - 満足度アンケートの依頼と回収 - 退院時診療情報提供書、封筒、外来予約表の印刷 面会対応 - 面会予約の電話対応、面会者の対応、時間管理 書類のスキャン業務 代行業務（医師） - 長谷川式認知症スケール点数の代行入力 - 下肢末梢動脈指導管理加算の代行入力	事務部 （クラーク）	- 看護助手の入院案内などの業務をクラークに委譲したため、看護助手の患者ケアの時間を増やすことができた - クラークと看護助手業務との線引きが難しいと感じることあるので患者に携わらない業務はクラークへ出来る限り依頼できた。 - 即入時の煩雑な業務が依頼出来て看護師リーダーの負担軽減につながった。	2023年9月

病棟③

内容	部署	成果	時期
- 入院時の問診票、CSセットの記入確認 - FaceTime面会、LINE面会 - 荷物の受け渡しの説明 - 自家用車来院患者のナンバー控え、事務提出	看護部 コンシェルジュ	入院時の業務負担軽減につながった。	2022年9月
コロナ抗原定量検査の実施	診療技術部 検査科	看護師の業務負担軽減につながった。	2023年6月中旬
食事変更時の電子カルテへの入力と栄養科への連絡	診療技術部 栄養科	リーダー業務の負担軽減につながった。	2022年4月

まとめ

働き方改革、地域医療構想、データヘルス改革など医療の変化が進んでいる中で、働き方が変化してきました。看護師の本来の仕事ができるように業務改善に取り組みました。

今回の取り組みの結果成果としては、

- ① クラークの導入により事務的な書類の取り扱い作業・電話対応が委譲できた。
- ② 検査部の協力で各測定（CAVI測定、BCM測定・CPAPクラウドデータの管理、出力）、コロナ検査が委譲できた。各クリニックで定期の検体準備など依頼できた。
- ③ 薬剤部の協力で透析室での一部の注射準備や入院時持参薬の確認定期処方の確認等が委譲できた。
- ④ 臨床工学技士の協力で内視鏡検査の準備・管理手術室の麻酔器の管理、手術時の直接介助業務の一部委譲ができた。
- ⑤ 看護助手へ病棟での入院時の説明やケアの介助物品の管理等委譲ができた。

今後も、これまで当たり前に行っていた慣習を1つひとつ見直し、新しい価値観を持って変革にチャレンジし続けなければならないと考えます。

今後の課題

患者が高齢化となっており透析患者の平均年齢は68.6歳
そのうち51.1%が70歳以上 90歳以上が31人

患者にとってこの先どう生きていきたいか最後はどんなふうを迎えたいかを考えていくことが重要な課題。看護師が本来実施していかなければならない患者と一緒に考えていくために、ACPプロジェクトが始動した。



愛Hopeノートや普及漫画の作成
カルテ内に【ACP】タグ作成